

第百五十八話 米空母サラトガは四度沈んだ？

ある論文を読んでいたら、“昭和天皇が及川古志郎軍令部総長の報告に対し、『サラトガが沈んだのは今度でたしか四回目だったと思うが』と苦言を呈す有様であった。”とあり、日本海軍の戦果報告の杜撰さに関する記述があった。で、気になって調べてみた。サラトガは、厳しい状況に追い込まれながらもしぶとく生き残った。殊勲艦でありながらも、1946年7月25日、ビキニ環礁で原爆実験の標的艦に選ばれ、沈没し、同環礁海底で眠っている。誠に数奇な運命を辿った空母である。

参考：大本営発表と実際の相違

連合軍喪失：大本営発表（空母 84 隻、戦艦 43 隻） 実際（空母 11 隻、戦艦 4 隻）

日本軍喪失：大本営発表（空母 4 隻、戦艦 3 隻） 実際（空母 19 隻、戦艦 8 隻）

2 空母サラトガについて

サラトガという艦名を冠せられる米軍艦は全部で6隻あり、本話の対象は第五代目の「サラトガ」である。本艦は、1920年レキシントン型巡洋戦艦の三番艦として建造されたが、ワシントン海軍条約（1921年）による戦艦数制限を受け、航空母艦（CV-3）に設計変更、1925年進水式、1927年米海軍に配置された。母港はサンディエゴ、1941年改修、公称3.3万吨、速力34ノット、搭載機数90～120機、延べ着艦機数89,195機は傑出。艦名の由来は、独立戦争時の激戦地であったサラトガに由来する。姉妹艦はレキシントンである。因みに我が国の大和型戦艦構想の始動は1937年である。



3 フェニックスかサラトガは

サラトガが参加した海戦と損傷状況等は次の通りである。

(1) 北太平洋ジョンストン島付近 1942(S17)年1月9日 潜水艦攻撃

南東へ航行中のサラトガを含む任務部隊に対し、日本海軍潜水艦伊6号が魚雷3本攻撃、命中、船体が傾く。伊6号は空母1隻撃沈と報告するが、実際は真珠湾に帰投、6ヶ月の修理に入る。

(2) ソロモン諸島南東沖 1942(S17)年8月31日 潜水艦攻撃

復帰したサラトガは、ガ島攻略及び第二次ソロモン海戦に参加した。ソロモン諸島南東沖で、日本海軍潜水艦伊26号の魚雷攻撃を受け航行不能となり、重巡に曳航され戦線離脱、ハワイに回航される。12月修理完了。ニュージョージア攻略、ラバウル空襲、マーシャル諸島攻略、サイパン空襲、スラバヤ空襲に参加後整備、完了後戦線復帰した。

(3) 硫黄島 1945(S20)年2月21日 特攻機

日本海軍第二御楯特別攻撃隊より硫黄島沖にて集中攻撃を受けた。4機の特攻機の体当たりと、投下された特攻機の爆弾2発が命中した。搭載艦載機が誘爆、艦内の航空燃料に引火して大破炎上したが辛うじて沈没は逃れた。5月22日に修理は完了し、6月3日に真珠湾へ戻り、再び航空隊の訓練に従事した。

(4) 同艦は、日本海軍潜水艦で2回、特攻機で1回の大損害を受けている。しぶとさには驚くばかりだ。多分にサラトガ撃沈と天皇に報告されたのは上述の三回の他に一回ある筈だが、調査不足で不明である。別の空母をサラトガと見誤ったのだろう。艦名を見間違ふなど基本がなっていない。

* 戦果確認は難しいものだが、流石に水増しされた戦果に疑問を呈する者も居たようだが、黙殺された。そんな体質では困る。何れにしても、杜撰な戦果確認では的確な戦争指導が、出来る筈がない。悪意ある改竄、隠蔽、捏造と思いたくはないが、疑われても仕方がないとも言える。

(第百五十八話 了)